

# 東北日本背弧域での震源断層モデルの構築と実施したリスクコミュニケーション会議

佐藤 比呂志・石山達也（東京大学地震研究所）・野 徹雄（海洋研究開発機構）・加藤直子（日本大学）・小平秀一（海洋研究開発機構）・松原 誠（防災科学技術研究所）

## ポイント

- ・ 日本海と沿岸域で発生する地震・津波災害の予測の基礎となる震源断層モデルを、反射法地震探査データを基軸として構築（日本海地震・津波プロジェクト, 2013-2021 年度）。
- ・ 東北地方の内陸部についても、既存資料を加え震源断層モデルを構築。
- ・ 震源断層の形状・特性には、日本海形成期の造構プロセスの影響が大。
- ・ 日本海沿岸の9道府県で、国・地方自治体・ライフライン事業者等、防災関係機関の担当者の参加を得て、リスクコミュニケーション会議などを開催(延 60 回)。

図 1 (右) . 日本海地震・津波調査プロジェクトで作成した震源断層の矩形モデル。

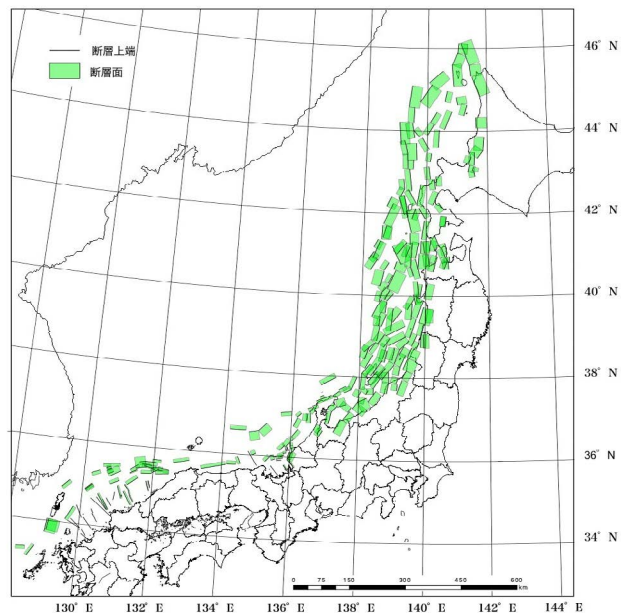
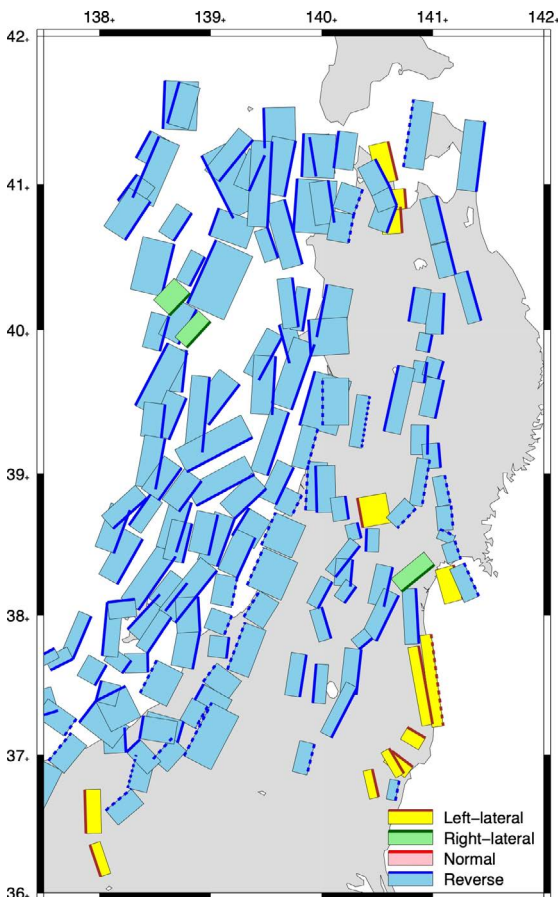


図 2 (左) . 東北日本と日本海における震源断層の矩形モデル。地表地質、反射法地震探査、重力データに基づく。活断層の判定基準より、拡大して抽出している(佐藤ほか, 2022 連合学会)。矩形は震源断層、太線は断層の上端、破線は断層面の示す。断層のタイプ(すべり角)は、Terakawa and Matsu'ura (2010)の広域応力場<sup>4</sup>から求めた。



東京大学地震研究所 佐藤比呂志 資料